

今日のキーワード 「AIIB」第1回年次総会（中国）

「アジアインフラ投資銀行（AIIB）」は、2015年12月に中国主導で設立された国際金融機関で、主な業務は、アジア新興国などのインフラ開発のための融資を行うことです。加盟国は中国の他、インド、ロシア、英国、ドイツ、フランスなど57カ国ですが、同様な役割のアジア開発銀行（ADB）を主導する日本や米国は加盟していません。「AIIB」の第1回の年次総会が6月25日、26日に北京で開催されました。

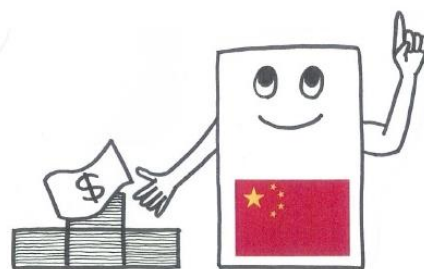
ポイント1 加盟57カ国の財務相らが参加 新たに24カ国が参加の意向

- 2016年1月に開業した「AIIB」は、6月25日、26日に初めての年次総会を北京で開きました。中国の楼継偉財政相ら加盟57カ国の財務相やADBなど他の国際金融機関の幹部らが参加しました。
- 開幕式で金立群総裁は2017年初めに新たな加盟国を迎える方針を表明し、24カ国が参加の意向を「AIIB」に伝えていと明らかにしました。すべてが加われば、81カ国となり、先行するADBの67カ国・地域を大きく上回ります。参加を見送っている米国や日本にも引き続き参加を呼びかけるとみられます。

ポイント2 第1号融資案件は4件 融資姿勢は慎重

- 年次総会で報告された第1号融資案件（4件、5億900万ドル）のうち、単独融資はバングラデシュの送配電事業1件だけで、残り3件はそれぞれ世界銀行、ADB、欧州復興開発銀行（EBRD）との協調融資でした。融資の内容もリスクの低い政府案件だけで、民間案件はありませんでした。今のところ、「AIIB」の融資姿勢は手堅いようです。

【AIIB（アジアインフラ投資銀行）】



今後の展開 日本の協力でアジアのインフラ活発化を期待

- 中国の習近平指導部は「一帯一路」構想を看板政策に掲げており、中国から欧州へと至る地域でインフラ整備を主導することを目指しています。「AIIB」は、「一帯一路」政策にとって重要な位置づけです。一方、日本はインフラ輸出を成長戦略の柱の一つに掲げています。アジアでの影響力を高め

たい中国の思惑がのぞくものの、「AIIB」が実務に徹するならば、協力関係は日本にとっても利点が多いと考えられます。日本が主導するADBと上手に協力できれば、アジアのインフラ投資が活性化する可能性があり、アジア全体の発展に大きく寄与することが期待されます。

ここも
チェック!

2016年6月21日 中国の住宅市況（2016年5月） 上昇持続も、住宅価格は徐々に頭打ちへ
2016年6月14日 最近の指標から見る中国経済（2016年6月）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。